山口市立小郡南小学校

第４学年　国語科学習指導案

平成２７年１１月９日（月）　５校時

４年２組　Ｔ１中原美穂　Ｔ２中重利紀

研究主題
子ども一人ひとりが輝く授業の創造
～ＡＦＰＹの視点を取り入れた授業づくりと授業改善～

１　単元名　物語を味わい、物語の「すてき」を伝え合おう　「ごんぎつね」

２　主題との関わり

物語文は、児童にとって人物に同化できたり、想像を広げたりしながら読み進めることができる楽しさの要素のある文章である。ただ、動作化や直感的な感想の交流などの表面上の楽しさに終始していたり、読み終わった時に教材の感想はもてたものの国語の力や言葉の力として自分が何を学んだのかがはっきりしていなかったりすることが多い。国語は、教材を教えるのではなく、教材で教えるのであるという基本に立ち返り、物語を読むことを通して、確実な国語の力を付けるような授業づくりをしていきたいと考える。

物語を読むことで付けたい国語の力として、物語の構成の特徴やふさわしい場面で用いられるさまざまな表現技法に気付くこと、中心人物の心情の変化をとらえて読むこと等があげられる。このような力を付けることで、物語の読み方を獲得し、叙述を基に人物の心情の変化や情景が表す意味などを想像して読むことができる。これがすなわち『物語を味わう』ことであると考える。また、物語を読み味わうことができるようになれば、一人ひとりの将来の読書活動を豊かにしていけると考える。

このように国語の授業づくりを考えた時に、児童が主体的に物語を読み味わいたいと思わせる「課題設定」が必要だと考える。そこで、物語を味わうための課題設定として、①「単元を貫く言語活動の設定」②「付けたい力を明確にした１単位時間の課題設定」を研究の視点とすることとした。

３　授業に向けてのブロック（組織）としての取組

○　教材別系統表を基にした授業づくり
　・各単元で付けたい力の明確化
　・年間で付けたい力の明確化

○　交換授業や少人数指導を取り入れた、きめ細やかな指導体制
　・国語科の交換授業の実施
　・学力向上推進教員を活用した少人数指導

４　単元設定の理由

（１）児童の実態

本学級では、おおむね学習の規律が守られ、どの児童も落ち着いて学習に取り組ん

でいる。フリートークなどでは互いの考えに共感的にうなずきながら聞き合う姿がみられる。一方で、自分の考えを話すことには苦手意識をもっている児童が多いため、学習の中でペアやグループによる話合い活動を取り入れることで、自分の考えを自分の言葉で伝える経験を積んできている。

国語の物語文教材の学習として、「白いぼうし」では叙述を基に場面をイメージしたり想像をふくらませたりするなどしてファンタジー作品の楽しさを味わった。「一つの花」では、場面を比較することで、中心人物の心情を読み取った。１学期末の「かげ」の学習では、物語の面白さを交流する活動を通してみんなで物語を読む楽しさを味わってきた。これらの学習を通して物語文を読むことを楽しめている児童は多いが、まだ叙述の特徴や技法に着目して深く考えるなど、言葉にこだわりながら「物語を味わう」ところまで至っていない。

（２）教材観

「ごんぎつね」は、６場面構成であり、１場面から５場面は、中心人物「ごん」の視点で書かれている。そのため、児童が、「ごん」に同化しながら読み進めることができ、心情の変化をつかみやすい教材である。ほんのいたずらで兵十のうなぎを逃がしてしまったことがきっかけとなり、ひたむきに償いをするごんの行動を叙述を基に読み取りながら、ごんの心情の変化を想像していく力を付けていくことができる。また、視点が変わる６場面では、「ごん」が「兵十」に撃たれてしまうという結末に、「通じ合えない悲しさ」などの読後感を味わうことができる。切ないまでに悲しい話に児童はそれぞれの感想をもち、今までとは違った物語のよさに出会えると思われる。また、美しい情景描写や色彩語もこの教材の魅力の一つである。ごんの心情と美しい情景描写など、さまざまな表現の仕方を重ね合わせながら、物語文を味わう力を付けるのに適した教材と言える。

（３）指導観

物語を主体的に読み進め、物語を味わうことができるようになるために、次のような手立てを取ることにした。

① 課題設定の工夫① 単元を貫く言語活動の設定 『物語の「すてき」を伝え合おう。』

「ごんぎつね」の読み取りを通して、物語の魅力（すてき）を見つけさせ、それを積み重ねることによって、自分にとっての「ごんぎつね」の魅力（すてき）を明確にして、それを友達に伝えるという、単元を貫く言語活動を仕組む。物語のすてきは、(「す」・・すごいなぁ 「て」・・手本にしたいなぁ 「き」・・気に入ったなぁ）という形で児童に提示する。物語を読み進める中で発見するであろう、構成のすばらしさや工夫（すごい）や自分の表現生活に活用したい表現（手本）美しい表現（気に入った）等が「すてき」である。毎時間この視点で振り返りをさせることで、文章の構成や表現技法のよさを獲得しようという意識が高まっていくと考える。また、友達との学びの中で見つけた友達に対する「すてき」を見つける効果も期待できる。

② 課題設定の工夫② 付けたい力を明確にした１単位時間の課題設定の工夫

「ごんぎつね」を読むことで、身に付けさせたい力を意識し、１単位時間の課

題設定の工夫をする。そのために、従来の場面読みの指導にとらわれない柔軟な単元構成を行い、１単位時間ごとの課題を設定していく。その際、児童の初発の感想や疑問、意識のずれも大切にしたい。

③　論理性を大切にした読み取りの指導

物語に対する自分の考えをもつ時に、必ず叙述を基にした手がかりを根拠にして、理由を考えさせたい。その際、人物の行動や情景描写等にサイドラインを引き、必要な叙述の部分を選択・整理し、自分の考えをつくり上げるなどの取組を行いたい。

④　自分の意見を深めるための交流の場の工夫

自分の言葉で話し、友達と意見交流することが自分の考えを深める大切な要素だと考え、授業中に自分の言葉で話す時間を設けたい。そこで、積極的にペア学習・グループ学習を取り入れたい。また、交流の場面では、相手と自分の考えや感じ方を比較しながら聴くこと、反応しながら聴くこと等の指導をしていきたい。

⑤　自分の学習の成果が明確になるような振り返りの工夫

振り返りでは、単元を貫く言語活動につながるように、「ごんぎつね」の「すてき」をみつけることを視点に振り返りを書かせたい。その際には、字数制限やキーワード等の条件を加えることで、大切なことを確かめ要点をまとめて書く力も付けていきたい。

⑥　物語を味わうために獲得した読みの力の可視化と活用（「読み取りアイテム」の獲得と掲示）

物語を味わうために必要な読みの力を、個人のノートに書きとめたり、教室に掲示したりしていくことで、獲得した読みの力を蓄積していく取組をしたい。獲得した読みの力は、「読み取りアイテム」として、年間を通して増やしていきたい。このことにより、自分の力で物語を読み味わい、自分の読書生活を広げていこうとする意欲を高めたい。学年の終わりには、物語を味わうために獲得した力を活用して、図書の時間に「ビブリオバトル」を行いたいと考えている。

※ 全国学力・学習状況調査実施に係る本校の課題

○　たくさんの情報の中から必要なものを選択して答えをつくる力を伸ばす必要がある。

○　登場人物の気持ちの変化を叙述を根拠にして読み取る力を伸ばす必要がある。

○　文字数限定の文章筆記問題や条件付き作文力をさらに伸ばす必要が求められている。

③・⑤・⑥は、特に重点的に上記の課題解決を意図した取組である。

5　単元の目標

○　登場人物の人物像や情景描写の効果をふまえて、その心情の変化を叙述を基に想像して読むことができるようにする。

○　物語のよさをとらえ、互いの考えたことを発表し合うことを通して、一人ひとりの考えや感じ方の違いに気づき、物語の読み方を広げることができるようにする。

６　評価規準

関心・意欲・態度	読むこと	言語についての 知識・理解・技能
・物語の読み方を獲得し、物語を楽しんで読もうとしている。	・登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。 ・物語を読み、感想を述べ合うことで、一人ひとりの考えや感じ方の違いに気づくことができる。	・情景描写・色彩語等の表現技法を理解する。 ・引用の意味を理解し活用することができる。

７　単元構成（全１０時間）

次	時	学習活動（主に取り扱う場面）	付けたい力（指導のポイント）
一	**初発の感想と学習の見通しをもつ。**		
	1	○今までの物語文の学習を振り返る。 ○ごんぎつねを読んで感想を持つ。（全場面）	・物語文の特徴 ・話者・登場人物
	2	○ごんぎつねのあらすじを確認する。（全場面） ○学習の見通しをもつ。	・場面　・視点 ・新出漢字　・あらすじ
二	**「ごんぎつね」を読み味わう。**		
	1	○ごんはどんなきつねかをとらえる。（１場面）	・人物像　・行動　・構成
	2	○ごんが変わったきっかけをとらえる。（２場面）	・変化のきっかけ・心内語
	3	○ごんのつぐないをとらえる。（３～６場面）	・行動の変化・心情の変化 ・心内語　・比較
	4	○ごんのつぐないから心情の変化をとらえる。（３～６場面）（本時）	
	5	○兵十の心情の変化をとらえ、物語の読後感について考える。（６場面）	・視点の転換　・読後感 ・呼称表現
	6	○情景描写と人物の心情の変化の関係についてとらえる。（全場面）	・情景描写　・色彩語
三	**「ごんぎつね」の「すてき」を伝え合う。**		
	1	○「ごんぎつね」の「すてき」を文にまとめる。	・字数制限の感想文・引用
	2	○「ごんぎつね」の「すてき」を発表する。	・物語文のよさ・友達との違い
図書　ビブリオバトルをしよう			
1	○ビブリオバトルのルールを知る。 ○学習した「読み取りアイテム」を使って、自分が選んだ本の「すてき」を見つける。		・本の魅力
2	○ビブリオバトルをする。 ○様々な本に出会ったり、友達の紹介のよさを認めたりすることで、読書の幅を広げる。		・物語や読書の楽しさ ・友達との違い

８　本時の学習

（１）ねらい　ごんのつぐないの変化やごんの行動から、ごんの兵十への心情の変化を想像することができる。

（２）学習過程

学習活動・内容	指導上の留意点
１　前時の学習を想起し、ごんの償いを確認する。 ・時間 ・もの	・前時に読み取った「時間ともの」を視点にし、ごんの償いの変化を確認する。 ・読み取ったことを時系列で示した表を活用することで償いの変化を視覚化し、ごんの償いを整理する。
２　償いをするごんの行動から、ごんの兵十への気持ちの大きな変化に気づく。 ・どこに・どのように **入り口→家の中へ**	・ごんの行動の変化は、４・５場面が、その大きなきっかけである事に気づかせる。 ◆ごんの行動から、ごんの心の変化に気づき、そのきっかけが４・５場面に隠されていることに気づくことができたか。
ごんは、なぜ家の中に入ったのだろう？	
３　４・５場面のごんの行動と心内語から、兵十に対する気持ちを想像し話し合う。 ・ごんの行動 かくれてじっと 二人の後をつけていく びくっとして、小さくなって いどのそばにしゃがんで 二人の話を聞こうと思ってついていく かげぼうしをふみふみ ・心内語 つまらない 引き合わない	・ごんの行動と心内語を見つけさせ、その時のごんの心情を想像する一人学びを通して、ごんの行動と心情についての自分の考えをもたせる。（サイドライン・書き込み） ・ごんの行動がとらえにくい児童には、ごんが主語になっている文を見つけるように助言する。 ・ペア学習を取り入れることで、自分の考えを自分の言葉で話す時間を保障する。 ・発表の時には、根拠（叙述を基にした手がかり）と理由（考え）をはっきりさせて、話すようにさせる。 ・フリートーク形式で話すことにより、安心して話せるように配慮する。 ・ごんが家の中に入った理由を、ごんの行動と想像したごんの心情を関連づけて言葉でまとめさせる。 ◆４・５場面のごんの行動から、兵十への心情の大きな変化を想像することができたか。
４　本時の学習の振り返りをする。 ・「ごんぎつね」についてわかったこと 「今日のすてき」 ・友達の意見を聞いてわかったことや、自分の考えが強まったこと等	・６０字程度で考えをまとめさせる。 ・行動を丁寧に読み取ることが、心情を読み取ることにつながることを確認し、「読み取りアイテム」として大切なものであることを実感させたい。 ◆本時の学習のまとめを条件に合わせて書くことができたか。

９　考察

（１）授業の実際

① 導入

前時の「償いの変化」の表をもとに、「ごんが家の中に入った」という大きな行動の変化に気づかせることができた。行動の変化にはそのきっかけとなる出来事があり、そこには大きな心の変化があることを確認することができた。

② 一人学び・ペアトーク

行動の読み取りが不十分である実態から、まずは４・５場面の行動を確認させた。ここで時間を取ってしまったことで、後半の話合いが十分にできなかったことが反省点である。行動を時系列に並べ、その後そこから想像できるごんの心内語について一人学びをした。ペア学習を取り入れ、自分の考えを言葉で伝えたり、友達の新たな考えに触れたりさせることができた。

③ フリートーク・学び合い

行動から想像したごんの心内語を、理由を入れて話すことができた。②の活動の成果もあって、自分の考えを自信をもって話すことができた。時系列で出てきたごんの心情を比較することで、「兵十の話を聞きたい」「気づいてくれているかな」という「期待感」の高まりに気づくことができた。また、「かげぼうしをふみふみ」の表現が期待の表れであることにも気づくことができた。さらに、「神様の仕業」をきっかけに「残念」という気持ちに変化したことを確認することもできた。ここでは、一人の児童が黒板の前に出てきて、「期待がマックスだったのに、神様といわれてがっかり」とごんの気持ちを代弁するように皆に語りかける姿も見られた。この児童の発言を「心情曲線」で表すことで考えを視覚化することもできた。

④ まとめ・振り返り

この話合いをもとに「なぜ、家の中に入ったか？」の自分の考えをまとめた。９０％以上の児童が「自分とわかってほしい」「気づいてほしい」という結論を書くことができた。ここでは、代表児童２名が発表した。最後に、２分間で６０字程度の振り返りを書いた。この学習を通しての「すてき」を考えながら全員が時間内に、条件に合った振り返りを書くことができた。

（２）取り組みの成果と課題

学力向上推進教員という立場から、本校の研修の活性化と、児童の学力向上を目指し取り組んできた。この授業実践を通しての成果と課題について具体的に述べる。

① 成果

〇組織的な取組

全国学力・学習状況調査の結果分析から課題を洗い出し、児童につけたい力は何かを共通理解したうえでの取組を行うことができた。確かな国語の力をつける授業づくりを目指し、２学期の全校授業を「国語」に絞り、１０月に、低学年ブロック「１年　くじらぐも」１１月に、中学年ブロック「４年　ごんぎつね」を計画し、全校体制で研修に取り組むことができた。このことにより、国語の授業づくりに対する教師の認識・理解を深めることができた。

４年部では、「ごんぎつね」の単元を交換授業で行った。２クラスの担任が、授業交換の時間を調整することで、学年で協力し、より深い教材研究や授業づくりを行うことができた。また、学力向上推進教員による少人数指導を基本とし、よりきめ細やかな指導を行うこともできた。

○ 国語で付けたい力を明確にした授業づくり

国語で付けたい技能や読みの視点を『読み取りアイテム』として、付けたい力を意識して物語文の授業づくりを行うことで、気持ちの読み取りだけに終始しがちな国語の授業づくりに対する、教師の意識を変える事ができた。

○　AFPY の視点を取り入れた一人ひとりが大切にされた授業づくり

授業の中に AFRY の視点を取り入れることで、児童一人ひとりが主役となり授業に向かうことができるようになった。本時で特に意識した「課題設定」では、児童の今までの読みから、「なぜ」を導き出すことで、自分達の課題として共有化され、それが本時の意欲につながった。また、一人学びの方法等の視覚化・ペア学習、フリートークの形態を取り入れた話合い活動も児童一人ひとりの思いを大切にする授業につながった。

②　課題

○　導入のあり方

児童の考えから、「なぜ」を引き出そうとしたあまり、前時の復習と導入に時間がかかりすぎてしまった。前時の時点で課題を引き出しておくことで、話合いの時間を十分に取ることができたと考えられる。

○　指導内容の焦点化

『読み取りアイテム』の指導を含め、一単位時間の中に指導したい内容が多すぎて、児童同士の学び合いの時間が少なくなった。４５分という限られた時間内に、どんな方法でどんな内容を考えさせていきたいのかを絞る必要があった。

○　フリートークのあり方

話合い活動をフリートーク形式にすると、ただの意見の伝え合いになってしまう。フリートークの内容としては、課題に直結する「なぜ、家の中に入ったか。」を話し合わせる方が良かったという参観者の意見が多かった。話し合わせる内容とともに、絡み合いのある話合いができるフリートークを目指す必要がある。

（３）　取組を通して

授業最後の児童の感想に「『読み取りアイテム』を使うことで、分からなかったごんの心内語に気づいた。これから物語を読むときは、行動に気をつけて読んでいきたい。」とあった。今回の実践を通して改めて「教材で何を教えるか」を考えることの大切さを実感した。物語文の授業を通して、将来活用できる確かな力を獲得させるよう、授業改善に努め、「わかった」「できた」があふれる授業を目指したい。